

(様式2)

2	2	0	0	6
---	---	---	---	---

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年2月19日
札幌市立新川小学校

- 1 本年度の重点目標 日常の授業改善から一人一人の子供のよさを引き出す
2 本年度の経営方針

① 学ぶ力の育成	②豊かな心の育成	③健やかな体の育成
④ 信頼される学校の創造	⑤教職員の健康・サービス・業務改善	

3 自己評価結果に対する学校関係者評価 (3.25 以上A、3.25～2.5B、2.5～1.75C、1.75 未満D)

分野	評価項目	自 己 評 価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学ぶ力の育成	まなびづくり				
	学びの基礎基本を育成するための指導の工夫	A	春の札幌教研集会では、全学級全教科で授業公開し、パートナー校同士で意見を交流し研鑽を深めた。また、ブロックごとの研究授業、道外研修に2名派遣、外部講師を招聘し【自由進度学習】について深く学ぶ等、授業力向上に努めた。	A	A
	個に応じた指導の工夫	A	適切な課題設定、ICTの活用、場の工夫を行いながら、それぞれの力に合わせた授業の構成を目指した。また、専科指導を充実させ、理科、書写、外国語等、専門的な視点をもっている教員が授業を行う機会を多く設定できた。	A	A
	宿題や家庭学習の習慣化	B	クロムブックを活用しながら、授業と授業をつなぐ主体的な宿題の在り方を模索はできたが、十分にできてはいない。紙のよさ、デジタルのよさを吟味しながら、よりよい習慣化を目指していきたい。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		・宿題や家庭学習の習慣化について、新川小学校としての取組は十分A評価としてよいものと思料します。 ・「家庭学習とは何か」（宿題との違い）を示し、「頭の体力」の向上を図ってほしい。			
豊かな心の育成	こころづくり				
	心の教育に関する取組	A	社会的な問題、学校で起きたこと、普段の生活から感じたことを、道徳の活動等で取り上げながら、教科と一体とした授業を多く構成できた。悩みを抱えている児童には、速やかに細やかな対応を家庭も含めできた。	A	A
	望ましい生活習慣の確立	B	一定数、学校、家庭共々、生活リズムが整えられていない児童も見られる。また、SNSの弊害、睡眠不足等が見られたが、効果的な解決へ迎えなかった。学校生活での時間に対する意識は向上したが、他者への配慮等ではまだまだ成長を促していきたい。	A	A
	いじめ・不登校への取組	A	いじめの芽にいかに早く気づき、迅速に対応するかを大切にし、チームで取り組むことができた。児童への対応、情報共有、保護者への連絡を丁寧に行うことができた。月1回開催されているいじめ対策委員会の存在も大きく、各学級学年の問題を全体で共有でき、の	A	A

(様式2)

				ちの指導に活かすことができた。2 学期はじめから、心の関係アプリ・シャボテンログが導入され、児童の様子を担当、担任外で共有しながら、迅速に対応できた。		
		所属感を高め、主体性を育む取組の充実	A	今年度は、教育課程のスリム化を行い、カリキュラムマネジメントについて模索する1年であった。その際、学年教科を横断した協働体制を構築できた。同時に、行事の精選を行ったため、各学年が直接かかわる機会を多く構成はできなかった。	A	A
学校関係者評価委員による意見			・「規則正しい生活」に課題があることがみとることができる。家庭の「子育て」の仕方（大切さ）を啓発する（後押しする）手立てが必要だと思う。 ・達成状況の評価について、妥当であると思われます。改善の方策についても妥当と思料します。改善の方策についても妥当と思料します。			
健やかな体の育成	からだづくり	丈夫な身体を育むための工夫	B	本校は、子どもたちと一緒に遊ぶ先生方が多いこともあり、他校に比べ休み時間にグラウンドや体育館で元気に遊ぶ姿が多い。また、竹馬、ドッジビー、スノーチューブを導入し、授業以外での運動機会の創出を狙った。しかし、運動機会が少ない子も多く、体力テストの数値も低い。更なる機会創出のため、中休みの場の工夫等行っていきたい。	A	A
		自分の健康について学ぶ機会の設定	A	1、2、4 年生に養護教諭が性指導を、3 年生に歯科衛生士さんが歯の健康について、5 年生は助産師さんに、6 年生は薬物乱用防止教室で講師に来校いただき命に関する指導を行えた。また、栄養教諭による食指導も全学級行うことができた。今後も、ゲストティーチャーを活用した健康への意識を高める取り組み、食に関する指導の充実を図っていきたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見			・達成状況、及び改善の方策について、妥当であると思料します。 ・丈夫な身体を育むための工夫に関し、十分に取り組んでいるものと思料するところです。 ・放課後も含めて、運動（外遊び）を奨励する「三間の創出」をアップグレードしてほしい。 ・児童は「食べよう」としている子が多く、家庭の食事と給食の違いがあると思う。親にも、食と健康の大切さを伝える手立てを考えたい。			
信頼される学校	つながりづくり・あんしんづくり	外部人材の活用や地域と連携した取組	A	新川高校、国際情報高校と、授業交流を行うことができた。また、身近な目標として、素晴らしい高校生の姿を見ることができた。また、街づくりビンゴ、地域の会社や店舗訪問、HTB アナウンサーの出前授業を行うなど、外部の方の力を得ながら、子どもたちの学びや視野を広げることができた。	A	A
		安全面への配慮と校内外の事故防止	A	大きな事故はなかった。毎朝毎昼学校長がバスポイントで登下校の見守りを行った。今年度より、市教委学校施設課に掛け合い、下校バス乗車補助として、シルバー人材センターから3名来られることになった。本校は、通学バスを420名程度利用している。そのバス停まで400mあり、本来業務ではないが、安全面を考慮し、本校教員が付いている。保護者への連絡を含め、特に交通安全には気を付けることができた。学校内では休み時間に可能な限り担任外が見回りや声掛けができた。	A	A

(様式2)

		家庭や地域との連携のための取組	A	「すぐーる」をいち早く取り入れ、連絡の簡略化、情報伝達の迅速化を図ることができた。特に、お便り等を電子化することにより、確実性ととも、省資源にもつながった。また、個人情報保護の観点からHPを簡略化した。CSでは、新川西中学校区として、パートナー校とコミュニケーションを図りながら、できることについて共通認識をもつことができた。PTA茶話会も今年度より再開され、保護者交流の場を設けることができた。	A	A
学校関係者評価委員会による意見			・バス通学は本校の特色であり、安全面で最大限の配慮を今後も地域や関係機関と連携して強化していきたい。スクールガード等の人材が高齢化しており、対策が急務である。 ・挨拶に関して、アンケートの結果をさみしく思う。実際に、朝のバス停で（自分から）挨拶をしてくる子は数名であり（中学生含む）、新年度はCSとしてあいさつ運動に取り組みたい。 ・達成状況、及び改善の方策について、評価等は妥当と思料します。			
教職員の健康・サービス・業務改善		教職員の心身の健康管理	A	教職員間、管理職との対話場面を多く持ち、それぞれの思いをしっかりと受け止める機会を多く設けた。結果、札幌屈指の残業量の少なさ、ストレス度合いの低さから、多くの職員がとても働きやすい職場という認識をもっている。	A	A
		教職員の業務の縮減と校務の効率化	A	今年度より、昨年度文科省からは是正勧告が合った通り、年間指導計画を1086時間未満にするため、学期初めや職員会議時など、短縮日程にし、残業を少なくすることができた。また、新出退勤システムを運用しながら、残業時間の管理を行い、仕事の配分を適正に管理した。現在は、テストの自動採点システムの導入の検討を行っている。	A	A
		教職員の服務規律の確保	A	全教職員、教育公務員としての自覚をもって子どもたちと向き合い、私生活も含めて規律を守ることができた。	A	A
学校関係者評価委員会による意見			・達成状況、及び改善の方策について、評価等は妥当と思料します。 ・各アンケートで「子供たちは新川小学校に毎日楽しく通っている」が90%を超えていて、大変うれしく思う。子どもが楽しく、保護者が安心して通学している理由があり、新年度もよろしく願いたい。			